



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



司教の手紙

見たこともないのに愛し、見なくても信じる

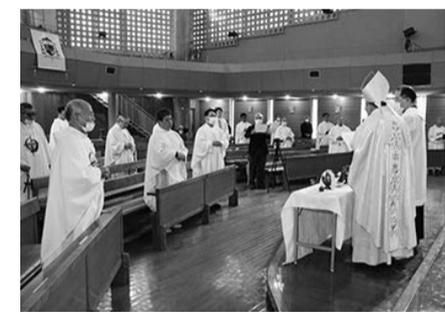
―復活祭メッセージ― 鹿兒島司教 中野 裕明



「キリストを見たこともないのに愛し、見なくても信じている」 罪と死に勝利した主イエス・キリストの復活、おめでとうございます。 教区の皆さま、お元気でしようか？ 今年度の復活祭は異常な状況の中で祝われています。世界中が新型コロナウイルスの猛威に晒されている中で復活祭です。この惨禍がいつどのような形で終息するかだれも予測できない状況の中ですが、とにかく、復活祭は5月末日まで続きますから、わたしたちの信仰を見直し、全能の神への信仰を固めていきたいと思

います。 コロナ感染への恐怖の中で、それを克服できるような信仰の捉え方を一緒に考えてみましょう。 さて、標題の文は聖ペトロの手紙の一節です。全文を紹介いたします。 「あなたがたは、キリスト

を見たことがないのに、愛し、見なくても信じており、言葉では言い尽くせない素晴らしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが、信仰の裏りとして魂の救いを受けているからです」(Iペトロの手紙 1・8-9)。



人間は普通見たこともないものを愛せないし、信じません。それは、自分の損得に関係ない事柄を極力遠ざける傾向があるからです。換言すれば「無関心」という常套手段で保身に全力を尽くすのです。教皇フランシスコが現代人の病癖としてたびたび警告している事柄でもあります。 一方、今日現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の

非公開での典礼続く中

今年の聖香油のミサ

司祭職制定を記念するとともに司教と司祭の強い絆を表す「聖香油のミサ」が4月7日(火) 鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂でささげられた。

の同ミサは、22人の司祭と終身助祭2人が中野司教を囲んで進められた。信徒の参列は、聖歌隊や教会職員などごくわずかだった。

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のために異例の非公開でささげられた今年

午前11時から始められたミサで、福音書朗読後に説教した中野司教は、新型コロナウイルス感染症蔓延と教皇フランシスコが昨年10月の特別シノドスで発したメッセージから次のように説教した。



「教皇フランシスコは、地球環境に目を向けて欲しいと言っている。これは貧しい人々、特に南半球の人々のため。グローバリゼーションという名のもと、自分が一番になりたいという人間の欲望のため世界では潰し合いが始まった。その犠牲となったのが南半球

お詫びと訂正 教区報4月号「教区の日」の記事で「ピオ11世によって65年前に司教区に昇格され」とありましたが、「ピオ12世」の誤りでした。お詫びし訂正いたします。

5月17日は世界広報の日

福音宣教はわたしたちの使命です。「世界広報の日」は、この福音宣教の分野の中でもとくに新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画、インターネットなどの広報媒体を用いて行う宣教について、教会全体で考え、反省し、祈り、献金をささげる日です。日本のようにマスコミや技術の進歩している国で、広報が社会や文化に及ぼす影響ははかりしれないものがあります。広報の重要性を再認識し、広報を通して社会と人々にとのようにかかわっていくことができるか、また、実際どのようにかかわっているかを考えることが大切です。

「世界広報の日」は、第2バチカン公会議で定められ、1967年以来、毎年教皇メッセージが出されています。なお、多くの国では復活節第7主日をこの日に定めています。

故成相神父追悼ミサ

1月27日にくも膜下出血のために東京の自宅で亡くなった成相明人神父の追悼ミサが、3月22日(日)午後、ザビエル教会でささげられた。午後2時からミサは中野司教と7人の司祭で司式され、約70人の信者が参列した。

福音書朗読後に説教した中野司教は、昨年夏の成相神父との面会でのエピソードや2002年5月に引退し鹿兒島教区を離れた後の暮らしを紹介するなどし「成相神父は自分の思いと生き方を手段を選ばず頑固なまでに通す人だった」とその人柄を偲んだ。 成相神父の遺骨は本人の希望もあり、その日のうちに鹿兒島市唐湊のカトリック墓地にある司祭の墓に安置された。

司祭の消息

▼田端孝之神父(コンベンツアル会・古田町教会協力司祭)は、4月24日付で長崎大司教区へ

性虐待防止に教区規定と基本宣言

4月のコンベンツで通達

4月7日の聖香油ミサ後にはコンベンツが開かれ、主に聖職者による性虐待について話し合いがなされた。会議では教区における「性虐待防止及び被害者支援に関する規定」と性虐待に対するカトリック教会の基本姿勢や被害を受けた人のケアなどを組み入れた「性虐待防止基本宣言」が通達された。

がその事実を見逃がしていったというスキヤンダルを描いた映画「スポーツライト」を参加司祭で鑑賞し、教会と司祭のモラルを学習するなどしていた。

# 差別主義と平等主義 (3)

紫原教会主任司祭

山口好信

先月号では福音書に見えるイエスの姿勢から、司祭と信徒の「平等主義の教会」が考えられるのではないかと述べました。今回はパウロの「フィレモンへの手紙」から考えます。とても短い手紙です。ぜひ読んでください。牢獄に収容されているパウロが、オネシモのことでフィレモンに宛てたものです。

フィレモンは奴隷を持つほどの裕福な自由民で、以前パウロから福音を伝えられて信仰を持った人です。彼は主イエスへの深い愛を持ち、キリストゆえに信徒への愛、信仰の交わりを大切にしています。だからこそ自分の家を教会として提供しています。一方、オネシモはフィレモンの奴隷でしたがそこから逃げて、今はパウロのもとにいます。かつてパウロが獄中にあつたときか、あるいは最近獄中の(外部との接触が許される軟禁中の)パウロから福音を聞いて信仰に入ったようです。またオネシモは今、年老いたパウロを世話しています。「彼は、以前はあなたにとつて役に立たない者でしたが、今はあなたにもわたしにも役立つ者となっております」(11節)とあるので、オネシモはフィレモンのもとから逃げてきた後、つい最近信仰に入つたのかもしれない。

人であるフィレモンのもとに戻そうと考えます。でもそうすれば、オネシモには不安と恐怖が生じ、最悪の場合殺されるかもしれない。その覚悟が必要ですが、他方、フィレモンが元奴隷オネシモをどう扱ってくれのか。同じキリスト者として「愛する兄弟」として受け入れてくれるかはわかりません。しかしパウロはフィレモンの信仰、「聖なる者たちへのフィレモンの愛」、「信仰者の交わり」(6節)に信頼してオネシモを送り返そうとします。パウロから見ると、フィレモンも、その奴隷オネシモも、パウロがもうけた(産んだ)信徒であり、キリストにおける兄弟です。パウロはオネシモのことを「わたしの子」であり「わたしの心」だと言って、守ろうとしています。あなたたち二人は、社会上は主人と奴隷だが、キリストにおいては兄弟であるはずだと。わたしパウロにとつてだけでなく、あなた(フィレモン)にとつてもオネシモは「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、愛する兄弟」(16節)ではないかと、2度も述べています。オネシモを一旦あなたのもとに送り返すから、彼をわたしパウロだと思つて迎えて入れてくれないかと、頭を下げています。さらにフィレモンに与えた損害があれば、それはわたしは弁償するからと、オネシモの負債はわたしの負債だとまでパウロは言います。このようなあり方が「教会」なのだと思つて教える



長崎巡礼の一行 (左が田端神父)

ています。キリストへの信仰が社会的な変化をもたらすことをよく示しています。当然の時代にあつて、奴隷制度を内面から解消する力をキリスト教信仰は持つていました。だからこそ、福音は広がっていったのでしよう。もしこの書簡がのちの時代にも読まれ生かされていたら、もつと教会の歴史は平等主義の方向に進んでいたはずですが、「ガラテヤの信徒への手紙」でパウロは洗礼を受け

てキリストに結ばれた人々は「もはやユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく」(3・28)と言っていますし、「コロサイの信徒への手紙」3・11でも同じです。ところが教会はこういつた御言葉を実践してきませんでした。中世の教会は、民衆すなわち農奴に聖書を読ませなかったし、また読めないように文盲のままにしました。社会の中で農作業などの肉体労働をしたのは、ギリシヤ・ローマ時代には奴隷であり、その後ローマ帝政後期にはコロヌスと呼ばれる小作人、そしてキリスト教時代に入つて

からは隷属農民つまり農奴が大部分でした。平和時に自由農民であった人々も戦乱や社会変動の時期に有力者の庇護下に入つて不自由な身分になっていき、農民の大部分は農奴になつていったのが西欧社会でした。西洋史の堀米庸三氏が「隷属と不自由が多くの人々の現実であった中世社会」と特徴づけているくらいです。地域にもよりますが5世紀頃から西欧は農奴制に移り、7世紀頃から古典荘園(大領主の下で農奴として)の時代、それがずつと続いて13世紀頃に純粹荘園の時代と変化しますが、農奴身分は続いていき

ます。文明史家ノウルズによれば「十一世紀においては、西方キリスト教徒の大部分は、自分たちの働く土地にけられていた文盲の隷属農民であった」し、司祭たちもほとんどは封建領主のもとで農奴や隷属身分の者でした。聖職者、特に教皇や司教は聖書をどのように読んできたのか。そもそもどういった人たちが司教になつていったのかというところ、ローマ帝政末期からフランク王国のメロヴィング王朝期にかけて、元老院議員階級(セナトル階層)の人々が司教になつていきまし

た。いわゆる聖貴族と呼ばれる人たちです。中世初期の頃です。庶民と貴族の隔たりはそのまま教会の中に持ち込まれていったのです。徐々に教会は差別主義的になつていったと言えます。パウロの言葉が実践されていけば、西欧は本當のキリスト教世界になつていたでしょうが、どうもそうではなかったと思います。

※堀米庸三「ヨーロッパ中世世界の構造」、今野国雄「西欧中世の社会と教会」、H・I・マール「キリスト教史2」、ポミアン「ヨーロッパとは何か」など参照。

## 卒業記念に長崎巡礼

### 奄美地区教会学校

奄美地区教会学校では、3月15日(日)から19日(木)まで卒業記念として長崎を巡礼した。参加した4人の男子生徒を引率したのは田端孝之神父(コンベンツアル会・古田町教会協力司祭)と奄美地区宣教師牧を考える会のスタッフ1人。一行は、15日の夜のフェリーで鹿兒島に上り、ザ

ビエル教会で祈りをささげた後、ワゴン車で巡礼に出発した。巡礼初日(16日)、佐世保や大村の教会を巡った巡礼チームは、翌17日には平戸巡礼と九十九島クルーズを楽しんだ。18日はコルベ資料館を見学した後、外海地区を回りドロク様記念館、出津教会、遠藤周作文学館などを訪問、19日に鹿兒島から空路で奄美大島に帰った。参加者の感想(部分)を紹介したい。

#### 富山 聖

最も印象的だったことはドロク神父のことです。ドロク神父が行ったことは、「人には最優秀のものを」です。優しさがものすごくある方でした。最近の社会では、揉め事など絶え間ないと思いが、ドロク神父のような配慮

#### 中田翔也

3日目に津津教会の方に参列しました。そこは昔、潜伏キリシタンだった町でした。苦しみがながらもキリスト教を信仰し続けた方々の歴史はとても深く感動しました。またドロク神父さんについても知ることができました。

#### 村田優之心

浦上教会のミサに参列し、このご時世でも多くの人々が平日の朝のミサに来ていたことに感動しました。今までの歴史や伝統などの土台がしっかりとっているからこそ、今でも多くの信者がいると感じました。将来、遠方から巡礼などで来客があつたときに同じように思

#### 栗栖宏行

特に平戸の教会は外観が本場に綺麗で、「もう一回行ってみたい」と思える教会の一つでした。また浦上天主堂の朝ミサに参列させていたいただいて、ミサや侍者の違いなどが分かり、すごく新鮮な気持ちを持つことができました。

### +KABAYAN SEKSYON+ Pasko ng Muling Pagkabuhay

"Kinahapunan ng Araw ng Pahinga, sa paglabas ng unang bituin, sa unang araw ng sanglinggo, pumunta sa libingan si Maria Magdalena at ang isa pang Maria para tingnan ang libingan" (Mt.28:1). Malalarawan natin sila sa kanilang pagpunta... Lumalakad silang gaya ng mga taong papunta sa sementeryo, na may di-tiyak at pagod na yapak, lumalakad na para bang hindi makapaniwalang ganito na lang natapos ang lahat. Malalarawan natin ang kanilang mga mukha, maputla't naluluha. At ang kanilang tanong: namatay na ba talaga ang Pag-ibig?

Kung gugunihin natin ang eksenang ito, makikita natin sa mga mukha ng mga babaing yaon ang iba pang mga mukha: mga mukha ng mga inay at lola, mga bata, binate't dalagang mababakasan ang kalupitan at kawalang-katarungan. Sa kanilang mga mukha makikita nating nasasalamang ang lahat ng mga lumalakad sa mga lansangan ng ating mga lungsod, mararamdaman natin ang sakit ng paghihirap, ang pighating nagmula sa pananamantala at pangangalakal ng tao. Makikita rin natin ang mga mukha nilang mga sinalubong nang may paghamak, sapagkat sila'y mula sa ibang bansa, pinagkaitan ng kinalakhan, bahay, at pamilya. Makikita natin ang mga mukhang nangungusap ng kalungkuta't kapabayaang, sapagkat gusot ang mga kamay nila ng mga kulubot. Sinasalamang ang kanilang mga mukha ang mukha ng kababaihan, mga inang tumatangis habang tanaw nila ang pagkasira sa buhay ng kanilang mga anak dulot... Sa pamamagitan ng araw-araw na kasakimang ipinapako at nililibing ang kanilang pag-asa... Sa pamamagitan ng mga tigang at nakalulumpong burukrasyang humaharag sa pagbabago. Sa kanilang pighati, sumasalamang ang dalawang babaing yaon sa mukha nilang lahat na habang naglalakad sa mga lansangan ng ating kalungsuran ay tangan ang nakapakong dignidad ng tao.

(Fr. Dino Orolfo)

# 中野司教を迎え聖母への奉献式

## レジオマリエ鹿児島コミチウム

「Legio Mariae鹿児島コミチウム」は3月15日(日)午後、カテドラル・ザビエル教会で今年度の「アチエス」(毎年刷新する「聖母への奉献式」)を開催致しました。

「レジオマリエ」(ラテン語で「マリアの軍団」の意味)は、カトリック教会の承認を受けた信心団体、

活動グループで、武器の代わりに聖霊の導きと神のみにことばによって、愛と優しさに満ちた奉仕をマリアと一致して行います。

小教区の司祭の指導のもとに、自らの洗礼と堅信による福音宣教の使命を果たすために、絶えず聖母の取り次ぎを願いながら、マリアの生き方に倣いできるだけ謙遜に人々への奉仕に生きるべく、教会の良きパ



レジオの目的は(1)会員の成聖、(2)会員の使徒職への養成、(3)社会の福音化、(4)助けを必要としている人たちへの奉仕、(5)教会と共に行う使徒職です。

## 子どもと女性の人権相談室

教皇フランシスコは、教会内の聖職者による児童虐待について、全世界の教会を挙げてこの問題に取り組み、解決に向けて進もうと発信されています。日本のカトリック教会も2002年からこの問題に取り組んでいます。

鹿児島教区では、遅ればせながら2016年7月の「カトリック中央協議会・子どもと女性の権利擁護のためのデスク」主催の「教区担当者の集い」に、当時の郡山司教様から2人が任命を受けて参加しました。その後「鹿児島教区・子どもと女性の人権相談室」を設置しました。対応委員会は神父1人、女性2人です。相談窓口は下記

の携帯電話番号で対応しています。被害を受けた方が苦しみを一人で抱えて生きていくのではなく、問題が少しでも解決し、生きやすくなるためのお手伝いが出来ればとの思いで取り組んでおります。その一つとして、被害者の方々を理解し、寄り添うための「心のケア講座」の開設に向けて、ファシリテーター養成コースの研修会に女性委員2人が参加しました。

わたしたちは、苦しみの中におられるあなたの気持ちを大切にいたします。お電話をお待ちしています。

電話番号：090-3418-2729  
 受付時間：10時～22時(月～金 ※祝日を除く)  
 相談内容：鹿児島教区で活動する司祭、助祭、修道士によるセクシャル・ハラスメント(対象者：子ども・女性)及びパワー・ハラスメント(対象：子ども・男性・女性)  
 相談窓口担当者：シスター澤 ヤエ子

と。そのために毎週の集いで祈り、提要の学びや霊的読書、仕事の報告、アロクチオ(指導司祭による短い

講話)、月初めの守秘義務の宣誓を大切に、御奉仕に向かうレジオ会員としての聖化に努めております。この日のアチエスにはフランシスコ・ザビエル中野司教様が今年度もご参加下さり、聖体賛美の司式にあ

「マリアの軍団の皆様への活動に感謝」との有り難いお言葉も頂き、会員一同、感謝の内に信仰の炎を燃え立たせ、Legio Mariaeの精神を新たに作る機会となりました。(報告・三角 都)

共観福音書にはイエス様が神の国をからし種に譬えて語られている場面がそれぞれに見られます(マタイ13・31、マルコ4・30、ルカ13・18、19)。

これをもって、神(天)の国の始まりは小さいことの譬えであると語られることが多いものです。これは確かに正しい理解ですが、イエス様が語られる多くの譬えや言葉は旧約聖書を背景にしたものであることを忘れてはなりません。

もとに宿り、翼のあるものはすべてその枝の陰に住むようになる。」と書かれています(17・23)。

## 《康由神父の聖書教室》

### レバノン杉

言葉です。彼は民族のアイデンティティが喪失しかねない時期にあつて、神様がエルサレムを再興してくださることをレバノン杉に譬えて預言したのです。

ところで、レバノン杉とは当時の最高の建築資材でした。このことはダビデやソロモンが王宮や神殿を建築するにあたってそれらを



用いたことから伺えます(サムエル記下5・11、列王記上5章)。私たち日本人は「杉」と聞くとヒマラヤ杉を思い浮かべます。この杉は垂れ下がった小枝に特徴があります。これに対してレバノン杉は小枝の先が上向きになります。この「上向き」にイエス様は着目した

イエス様が神(天)の国をエゼキエルの預言を踏まえて譬えられたことは明らかです。であれば、今のイスラエルはバビロン捕囚期と同じく、神様から離れてし

まっているようなものである、ということをお話したいので、この杉を言わんとしたのではありません。しかし、捕囚期が過ぎ去ったように、今や神様はご自身を通じて神(天)の国が実現し始めている、という考えを訴えていると考えられます。レバノン杉の枝が上向きであるように、時代はイエス様を通じて神様へと再び歩みを始めたのです。ここに「からし種のたとえ」の深みがあるように思えます。



## 会と催し 5月

- 3日(日) 復活節第4主日
- 5日(火) 世界召命祈願の日
- 6日(水) レンデンプートル会黙想会・8日
- 10日(日) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 14日(木) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 15日(金) 復活節第5主日
- 17日(日) 聖マリア使徒
- 17日(日) 青年会・教区本部・18時30分
- 17日(日) 復活節第6主日
- レジオマリエ鹿児島コミチウム・谷山教会・14時
- デイリーノ神父叙階記念(1998年)
- 世界広報の日(献金)
- 20日(水) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 21日(木) デイリーノ神父霊名(聖ベルナルディノ)
- 21日(木) 聖マリア学園理事会・教区本部・10時
- 24日(日) カトリック学園園長主任会・15時
- 24日(日) 主の昇天
- 27日(水) シノドス信仰部会・教区本部・14時
- 31日(日) オリブの会及び共にこの道・教区本部・14時
- 31日(日) 大隅学園理事会・教区本部・10時
- 31日(日) 聖霊降臨の主日
- レナプートル会地区大会
- タム神父叙階記念(2007年)
- 【司教日程】6日中野アカデミー、11日司祭生涯養成会議(東京)、13日特別臨時司教総会、18日大口明光学園理事会、20日中野アカデミー、21日聖マリア学園、27日福岡大神、31日谷山教会

## 祈りの意向

【祈祷の使徒会】 助祭のために  
 福音宣教 召命  
 日本の教会

## 新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、  
 新型コロナウイルスの感染拡大によって、  
 今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。  
 病に苦しむ人に必要な医療が施され、  
 感染の終息に向けて取り組むすべての人、  
 医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。  
 亡くなった人が永遠のみに迎え入れられ、  
 尽きることに不安に満ちたままに。  
 不安と混乱に直面しているすべての人に、  
 支援の手が差し伸べられますように。  
 希望の源である神よ、  
 わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、  
 世界のすべての人と助け合つて、  
 この危機を乗り越えることができるようお導きください。  
 わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。  
 希望と慰めのよりどころである聖マリア、  
 苦難のうちにありわたしたちのために祈りください。  
 (2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

ウガンダの旅 2018

ンガンバ島とシヨツピング

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、一昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の14回目。



チンパンジーを観察するウガンダの小学生たち

鳥の方が好き。鳥に着く前から気になつていたが、鳥の観察の方がずっと楽しい。この島には鳥がたくさん。ツァーコンダクターのFさんが鳥に詳しいらしく、支援地近くでも鳥について教えて下さっていた。そのときにもいたらしいのであるが、わたしは見る事ができなかった。ハタオリドリをこのンガンバ島で間近に見ることができ

た。何枚も写真に撮る。チンパンジーの写真よりも鳥の写真の方が多かった。エンテペの街に戻り、シヨツピングモールへ。いわゆる観光地の土産物屋は高いので、そういうところでの買い物はしたくないと思つてきた。それに比べてこゝういう庶民の買い物場所は魅力。ここビクトリア・モールで買い物タイムが1時間ほど。見ているだけで面白かった。入つてすぐに、アルコール類。ビールはナイール・スペシャルをはじめ、さんざん飲んだので、もう土産にはいらぬと思ひ、パス。そのとに、スピリッツ類。日本でいえば焼酎の類であろうが、原材料がよくわからないあやしい飲み物がたくさん並んでいる。以前、東京でアフリカ料

理の店に行つたことがあつて、そこで木の根っこからできているという酒を飲んだことを思い出し、ともかくウガンダ産のあやしい酒を2本購入。ビンにはひとつはジン、もうひとつはシエリー、と書いてある。原材料に「neutral spirit」と書いてあるのが何ともあやしいではないか。続いてコーヒーと紅茶のコーナーへ。コーヒーは絶対はずせないと思つていた。たくさんあつて迷つた。たぶん、ゴリラさんのお勧めでは、ゴリラブランドということだったので、2袋購入。紅茶もいろいろ種類があつて、値段もピンからキリまで。明日の最終日にやはり土産物タイムがあつて、そこでおすすめのコヒーがあるから、との話だったので、それに期待してコヒーはゴリラブランドだけとしておく。ここで8万シリングほどを使う。3千円弱だから、土産にしてはまずまず安く済んだと思ふ。

買物物を済ませ、カンパラに戻る。途中ものすごい渋滞。予想されていたこととはいいながらも、だいぶ遅くなる。ホテルの周りがこれまた大渋滞。あとで聞いた話だが、この日、宿泊のホテルで、副大統領の娘さんの結婚式があつたらしい。そのため、警備の厳重さもあつて、すごい渋滞となつたのだそう。ホテル到着が9時。もう夕食をとつたら寝るだけ、という感じであつた。シヨツピングモールで買って来たあやしい酒は飲む機会がなく残念。夕食のときまたナイール・ス

ペシャルは飲んだが... 翌8月4日朝5時に起床。5時半くらいに「王であるキリスト」小教区のミサへ。「あれ、今日は人が少ないぞ」と思つて、始まるの時刻を聞いたら、今日は土曜日で、7時からだという。待つことは別にいいのだが、この日の出発は8時。集合が7時50分、ミサが終わつて帰るとおそろしく集合時刻ぎりぎり。朝食はとれそうもない。さて、どうしたのか。一度帰るといふ手もなくはないが。

KJPP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 5月号

19人の知的障害者を殺害した相模原殺傷事件の植松聖(うえまつさとし)被告に、3月16日、死刑判決が出ました。2016年7月26日、この事件が起きたとき、頭に浮かんだことが二つありました。一つは、戦前のナチスの「T4(テューア)作戦」です。これは「社会の役に立たない者は、安楽死させるべきだ」というナチスの安楽死政策です。その対象は精神病患者・ユダヤ人・障害のある乳幼児・ジプシー・ロシア系・登校拒否児童・てんかん患者・脱走兵・労働忌避

者・同性愛者などで、15万人から20万人が犠牲になつたと言われています。もう一つは、障害者施設などの介護現場職員の労働環境や待遇の劣悪さです。これは明らかに政治・行政の予算措置における怠慢に責任があります。特に事件の現場となつたやまゆり園のような知的障害者施設では、スタッフの負担は限界を超えています。元々スタッフ不足のうえ、単独で家計を賄える給料をもらえていないのはほんの一握り。ほとんどが「パート」の給料でフルタイム並みの責任を

負わされています。特に「医療行為」が必要なのに、資格者がいない場合など、現場のストレスは苛酷です。労働者側の人権が見落とされ、守られなければ、結果的に入所者側の人権も守られません。そんな鬱屈し、閉塞感に満ちた世界を「きれいきつぱり変革したい」という植松被告の誤った欲求が、事件の動機の大きな部分を占めていたのではないかと感じます。

▼社会問題の分かち合い (毎月第三土曜日) 日時: 5月16日(土) 13時~16時 場所: 教区本部 内容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換 その他

週刊『こじか』のご案内
福音の日常の言葉で主日の福をやさしく説明し、多彩な記事やイラストでイエスキリストのメッセージを伝える週刊『こじか』。受洗、初聖体のプレゼントとしてお孫さんへのプレゼントをいただいております。
★毎週日曜日発行(年44週) B5判・16頁(ふりがなつき)
★定価75円+税(送料別) \*50部以上の団体割引あり
★国内年間定期購読 1部4600円/2部8400円(税・送料込、2部の価格は同じ発送先の場合)
オリエンズ宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
TEL03-3322-7601 FAX03-3325-5322
詳細はHPをごらんください。